

部局名：人文科学府言語・文学専攻

学位名：修士

学位プログラム名：言語・文学

新ディプロマ・ポリシー

◆教育の目標

人文科学府の諸学問の根本は、人間の精神文化を培い、表現し、蓄積する知の宝庫としての言葉を通じて、人間の本質とその営為を探求することにあります。本学府は九州大学の『教育憲章』『学術憲章』に則り、言葉に自覚的かつ批判的に関わる中で、人間存在の奥深さへと眼差しを向け、文化・歴史・社会の多様性を認識し、新たな人文学的知の創造に寄与する人材を育成することを、教育の目的としています。

こうした教育の目的のもとに、本学府は人文基礎、歴史空間論、言語・文学の3専攻を置き、その下に18の専修において、人文学全般の問題意識を共有しつつ、専門性を深めた教育を行います。そして、人文学の学術研究を先導する中核的役割を担い、成果を世界に発信する研究者、教育者、社会人を養成します。

◆教育の目的

人文科学府言語・文学専攻では、言語および文学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供します。そして、学士課程での学習や学問的経験を基盤にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても多角的に考察しうる人材を養成します。

こうした教育の目的のもとに、人文科学府言語・文学専攻では以下を達成しうる者に九州大学学位規則に基づき、学位（修士）を授与します。

- ・言語という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮することができる。
- ・批判的な討論を通して養われた、自らの意見をより客観的視点から組み立てる姿勢により、他者を尊重する市民性を発揮できる。
- ・博士課程に進学し、専攻する学問領域においてさらに研究を深化させて、独創的な成果をあげることができる。
- ・教育・研究に関連した職業に就き、文学研究あるいは言語学の体系的な知識や方法論を社会に普及させ、その一層の活用を図ることができる。

学修目標

A. 知識・理解

A-1. (人文学と現代文化の理解) 人文学の知識をもとに、現代文化のあり方とそれへの多様なアプローチを説明できる。

A-2. (専修分野の知識と理解) 国語学・国文学、中国文学、英語学・英文学、独文学、仏文学、言語学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を説明できる。

B. 専門的技能

B-1. 知識・理解の応用

B-1-1. (文献・データの収集・構築) 言語・文学の領域に関する文献や一次資料、調査データを収集し、その結果を分析可能な資料体として構築することができる。

B-1-2. (言語データの分析) 言語を対象とする領域では、収集した言語データを言語学的方法論にもとづいて的確に分析し、文法的な構造や特徴を理論的に説明できる。

B-1-3. (文献の読解) 文学を対象とする領域では、過去に蓄積された重要な文献、とりわけ古典を厳密かつ精確に読解し、先行研究を踏まえつつその内実を深く掘り下げて説明できる。

B-1-4. (表現力) 他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、研究成果を学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。

B-1-5. (外国語運用能力) 外国語を取り扱う専門分野では、外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を表現できる。

B-2. 新しい知見の創出

B-2-1. (知識・理解の深化と統合) 専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得し、高度に専門的な知識を有機的に総合できる。

B-2-2. (独創性) 新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示できる。

C. 実践的場面での知識・理解の活用

(他者を尊重する公平な姿勢) 先行研究と自らの学説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する、市民性のある公平な姿勢で論文を作成し、高度な学術研究に貢献することができる。

新カリキュラム・ポリシー

【コースワーク】

本専攻は、国語学・国文学、中国文学、英語学・英文学、独文学、仏文学、言語学の6専修から構成されていて、学生はどれか一つを選択します。それぞれの専修では、上記のディプロマ・ポリシーを達成するために、別表(カリキュラム・マップ)の通り、教育課程を編成しています。

学生は、これらの「研究」「特論」「論文指導」などの授業を通して、専門分野の理解・知識と能力を養いますが、一方、広人文学専修以外では「現代文化論A~D」を4単位修得することで、人文学の大学院水準での広い基礎教養を身につけます。

各専修の授業科目はカリキュラム・マップのとおりです。

修士課程では論文指導2単位を含めた合計30単位以上の修得と修士論文が、修了要件となります。

【研究指導体制】

研究指導体制は、指導教員(1名)と副指導教員(複数名)のもとで研究指導を受けます。副指導教員には他専修の教員が一名加わります。

【学位論文審査体制】

修士論文の審査は、指導教員と副指導教員の全員で行います。立ち会い教員として、他専修の教員も1名参加する口頭試問で、修士論文の内容について質疑応答も行います。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

《アセスメント・プラン》

修士論文を共通ループリックによって評価した結果と、カリキュラムについての学生へのアンケートの結果を、FD委員会による「カリキュラム検討FD」を開催して分析し、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを検討することで、教学マネジメントを推進します。

新アドミッション・ポリシー

【求める学生像】

本専攻は、言語という人類の最も基本的な知についての研究を特色とすることから、学生は、ものごとを根本から思索する能力が求められます。そのためにも、現代の言語現象のみならず、過去に蓄積された重要な文献、とりわけ古典と呼ばれる文献を厳密かつ正確に読解する能力も必要とされます。

学部における勉学により、上記の思索する能力、文献を読解する能力を十分に身につけた学生を本専攻は求めています。

【入学者選抜方法】

入学選抜に当たっては、何よりも本専攻の教育理念にふさわしい人材の確保を基本方針とします。そのため、卒業論文あるいは研究計画書の提出を求めるとともに、各専修に必要な専門知識や語学力を問い、さらに口頭試問を課します。